

平成26年度消費者セミナー開催

一般社団法人山梨県トラック協会(坂本政彦会長)は、3月7日(土)に昭和町「アピオ甲府」において、業界のPRをかねた消費者セミナーを開催し、会員企業の役職員等約230人が参加した。

セミナーにあたり、坂本会長は、「今、運輸業界は大変厳しい状況におかれている。その中で、トラック輸送の大切さを知ってもらい、みんなが共通の認識をもち、物流をめぐる今後のあり方について考えて行かなければならない時代が来ている。」と語った。

セミナーは、「これからどうなる暮らしと経済」をテーマに、講

師には、関西大学政策創造学部教授・政策学科長の白石真澄氏を招き開催された。

白石教授は、「今、運輸業界は人手不足で若い人の採用が難しく、女性の雇用が多くなっている。これからの社会は、個々の企業とそれぞれの地域ががんばっていかねば成り立たない。会議室の中では新しい物につくれない。」「創業しなければ雇用は生まれないので、新しいビジネスを後押ししなければ成長はない。」「労働集約型(介護・保育・運輸)産業に人が集まらないので、定年制を廃止して、働ける内は働いてもらう。しかし、若い人との給与の差をつける。」「今後の日本は、社会保障が上がり、若い人達の負担が増えるので、高齢者が働ける環境を整える事が大切である。」などの話がされ、参加者はみな熱心に聞き入っていた。



白石真澄教授



参加者からは、「景気は上向いていると言われていたが、燃料の価格の高騰に加えて、人手不足という2つの難題に直面している。物流は生活の中で欠かせないものであるからこそ、これからも、くらしと経済のライフラインとして頑張っていかなければならない。」と、今後業界として事業者が協力して対応しなければならぬ経営課題が意見として出され、益々重要になってくる協会の役割を認識した。